

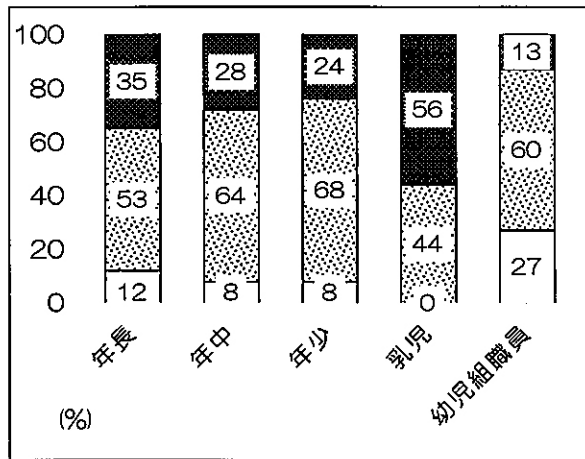
令和6年度 学校評価（2月最終評価）分析

呉あそか幼稚園

①（幼）場に応じた挨拶を自分からしている

（乳）言葉やしぐさで生活に必要な挨拶をしている

【取り組んだ内容】



年長 場面に応じた挨拶ができるように言葉がけをした。

年中 保育活動の始めに挨拶をして、それに気づいて挨拶ができた子どもをほめ、クラスでの意識を高めた。

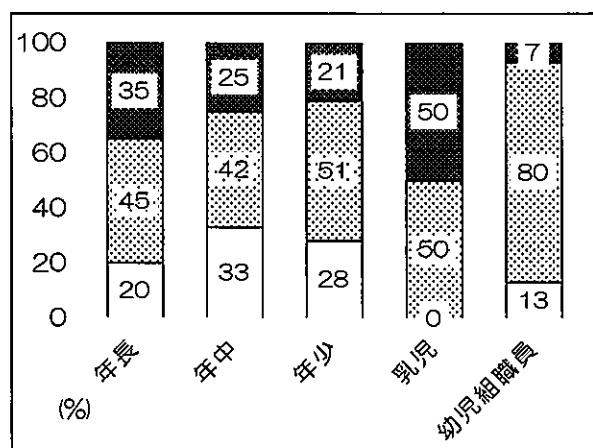
年少 挨拶をするように促した。その場面にあう挨拶の意味・理由を伝えた。

【全体を通して】

全体的に肯定的評価の割合が高かったが、職員から見ると、まだ十分ではないと思っている割合も高かった。子どもは声をかけられることで意識が高まる。やりたくないのではなく、今は段階的に身に付けていく途中だと思われる。園外に出た時、近所の方に進んで挨拶をする姿が見られるようになった。年長はその場面を考えて言い直せるようになっている。

②（幼）愛着をもって丁寧に片付けている

（乳）おもちゃ、絵本などの物の扱い方を知り、決まった場所に片付けている



【取り組んだ内容】

年長 再度子どもたちと片付ける場所を確認した。

年中 棚の中の整理できているかチェックをし、個別に声をかけた。

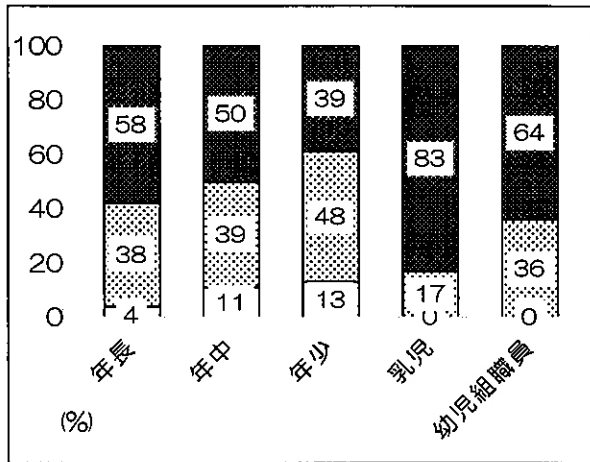
年少 片付け名人を作って意欲を高めた。

【全体を通して】

学年が上ると片付けている子の割合が高くなっている。特に、職員の肯定的評価は高い。片付けの時間になると、友だちが使ったおもちゃも片づける姿が見られる。ただし、丁寧にできる子とできない子が固定されている。片付けをどこまでやれば良いか、具体的に示す必要を感じた。また、片付けよりも、使い方が気になっているので、これからはその点も取り組みたい。片付けの確認をすることで良い方に変化が見られたが、しばらくすると元に戻ったため、繰り返し伝えていくことが必要である。

- ③（幼）自分なりの目標を持ち、続けてがんばろうとしている
 （乳）自分でできたことを喜び、続けてがんばろうとしている

【取り組んだ内容】



- 年長 一人一人の目標を文字に起こして書いてみた。発表会練習では短期的な目標をたてた。
- 年中 発表会練習はクラスで「今日はここをがんばろう」と1日の目標をたてて進めた。
- 年少 自分の目標を言葉にできないが、保育教諭に手伝ってもらいながらやってみたいことに挑戦できるようにした。

【全体を通して】

子どもたちは自分なりの目標を持ち、続けてがんばろうとしていると保護者も職員も評価している。ただし、目標を書いたことで満足をしてしまい、どれだけできたかなと保育教諭の評価が十分でなかった面もある。発表会練習ではその日の短期目標を決めると、それに向かってがんばる姿が見られた。年長は目標が達成できたら、スタンプを押せるようにして、自分のがんばりが見えるようにした。このことは意欲につながり、粘り強く取り組むことができていたように感じる。

- ④教職員は、笑顔でやさしく子どもに接している
 ⑤教職員は、礼儀正しく言葉遣いも丁寧である
 ⑥教職員は、子どものことで保護者と連携している

【取り組んだ内容】

今回も肯定的な評価をたくさんいただいた。引きつづきがんばりたい。
 園内で接遇研修を行った。よりよい対応を職員全員でできるように今後もこのような機会を設けたい。

《今後の取り組みと改善策》

来年度の学校評価内容を再検討する。保護者、職員がより評価しやすい、わかりやすい内容にしていく。
 3月中には新年度の重点を決定して、それに基づいた評価内容を示していく。

（１） 評価結果に（保護者アンケート、職員自己評価）について

- ・ 学校評価も2年目を迎え、評価項目もより具体化し、1年目に比べて保護者と教職員の共通理解が深まりながら評価が実施できつつあるが、さらなる評価項目の具体化を進めていくこと。
- ・ 挨拶、片付け、目標達成…中学生でも課題になる項目である。基礎となるこの幼児期に職員、保護者一丸となって取り組み、成果が出てさらに上を目指す姿がすばらしいと思う。
- ・ 10月の評価と2月の評価の違いがあったのは、保護者会で説明して下さったことも影響が大きいと思われる。全体に周知するというのは大切だと感じる。

（２） 結果の考察と改善策について

- ・ 園児の発育・発達段階に視点を置くと、年少から年長を一括りにして重点目標を設定するか、年少・年中・年長それぞれ段階に応じた達成目標を設定して、3力年を通じて重点目標の達成を目指す方向で進めるのかを明確にしていく必要がある。
- ・ 取り組み内容をより具体的に細分化して、やりやすいように掲げて、子どもたち自ら「やりたくてたまらない」が日常になればいい。年度をまたいでもリセットされず、引き継がれていくことを願う。
- ・ 年上の子どもの姿は年下の子どもからのあこがれであり、見本であり、そんな存在になれるよう頑張ると思うので、関わりを増やし、子ども同士で自ら意識を高めるような縦割り活動を取り入れてもよい。
- ・ 「近所の方に進んで挨拶」はある中学校の評価委員会で「足りない」と評価された。
親子で過ごせるのが幼児期にぜひ、前のめりぐらいに親子で積極的に取り組んでもらいたい。
- ・ 今後はシンプルで評価しやすい項目が良いと思う。「場に応じた」という文面は評価するのに難しかった。
- ・ 幼稚園の先生と保護者が子どもについて話す時間が減ってきていると言われたが、5分でもいいのでその時間があるとうれしい。先生方によってはどうしても気になる子に目が行きがちなと思うが、すべての保護者と連携できたらよりよいと思われる。

この度は学校評価（2月）のアンケートにご協力くださり、ありがとうございました。
皆様の回答を分析し、改善策を以上のように報告させていただきます。